

科目名称	臨床動作分析法
授業コード	BG282
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	豊田 輝
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	当該講義は、運動学や運動学実習で学んだことなどを基盤として、理学療法における重要な評価方法のひとつである「動作分析」について学ぶ。具体的には、理学療法評価における「動作分析」の位置づけを理解した上で、実際に片麻痺者などの動作を動画で観察・分析を行い、その評価手法を習得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士の臨床経験を有する教員が動作分析の知識・技術や機能障害と能力障害の関係性を教授する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーの理学療法評価法の修得目的達成のために、本科目に關し、具体的には以下の到達目標がある。 ・理学療法評価における「動作分析」の位置づけを理解できる。 ・動作の「観察」と「分析」の違いを説明できる。 ・正常基本動作を分析することができる。 ・異常基本動作を分析することができる。 また、本科目は、カリキュラム・ポリシーである「理学療法士として必要な実践的臨床能力である評価法」のひとつとして配置している。
計画・内容	1) 基本動作分析の意義と方法 担当教員：豊田輝（理学療法士） 2) 正常・異常な基本動作の観察・分析（立ち上がり）担当教員：豊田輝（理学療法士） 3) 正常・異常な基本動作の観察・分析（寝返り） 担当教員：豊田輝（理学療法士） 4) 正常・異常な基本動作の観察・分析（起き上がり）担当教員：豊田輝（理学療法士） 5) 正常・異常な基本動作の観察・分析（歩行①） 担当教員：豊田輝（理学療法士） 6) 正常・異常な基本動作の観察・分析（歩行②） 担当教員：豊田輝（理学療法士） 7) 正常・異常な基本動作の観察・分析（歩行③） 担当教員：豊田輝（理学療法士） 8) 正常・異常な基本動作の観察・分析（歩行④） 担当教員：豊田輝（理学療法士）
授業の進め方	開始当初は、パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料など適宜活用する。その後は、グループ単位で実際の動作を観察・分析を行う演習授業を適宜入れながら、各自による課題レポート作成を求める。その際、指定の教科書などを参考にして作成すること。
能動的な学びの実施	指定教科書に掲載されている症例動画から各自で動作観察・分析を行い課題レポートを作成するほか、授業内グループワークではその発表を行う。
授業時間外の学修	教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること（各回1～2時間）
教科書・参考書	＜指定教科書＞ ①豊田輝（編集）、症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト、羊土社、2021年 ＜参考書＞ 小林麻衣（責任編集）、15レクチャーシリーズ 理学療法作業療法テキスト 臨床運動学、中山書店、2015年 石井慎一郎（編著）、動作分析 -バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践- MEDICAL VIEW、2013年

成績評価方法と基準	課題レポート（40%）、授業態度（10%）、期末試験（50%）を総合して評価する。
課題等に対するフィードバック	課題レポート内容について授業の中でフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	実際に動作分析を行う際には、動画撮影が可能なデジタルカメラや携帯電話（動画撮影保存機能付き）などの準備を求める。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 ②成績評価方法 ・授業中課題50%、期末課題レポート50%、で評価する。

科目名称	理学療法評価学
授業コード	BG152
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	塚田 絵里子, 松葉 潤治
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、理学療法治療を進める上での基礎となる理学療法評価の進め方について、総論および検査ごとの各論を講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法治療の根拠となる理学療法評価法を理学療法士として臨床経験のある教員が各評価項目の概要を分担して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに挙げられた、理学療法士として臨床場面において必要な評価法の知識と技術を習得できる。 以下を本科目の到達目標とする。 1. 理学療法評価の意義と進め方を理解する。 2. 理学療法の各検査・測定技術の意義および概要を理解する。
計画・内容	第1回：科目オリエンテーション、評価の基礎 担当教員：松葉(理学療法士) 第2回：姿勢評価・形態測定 担当教員：松葉 第3回：関節可動域検査の概要 担当教員：松葉 第4回：関節可動域検査の測定方法、徒手筋力検査の概要 担当教員：松葉 第5回：徒手筋力検査の測定方法 担当教員：松葉 第6回：痛みの評価、感覚検査 担当教員：松葉 第7回：意識障害・全身状態の評価 担当教員：塚田(理学療法士) 第8回：筋のまとめ（上肢） 担当教員：松葉/塚田 第9回：脳神経の検査 担当教員：塚田 第10回：高次脳機能検査 担当教員：塚田 第11回：反射・筋緊張検査 担当教員：塚田 第12回：姿勢バランス検査 担当教員：塚田 第13回：協調性検査 担当教員：塚田 第14回：片麻痺機能検査 担当教員：塚田

計画・内容	第15回：筋のまとめ（下肢） 担当教員：塚田/松葉
授業の進め方	【授業の進め方】 教科書に準拠しておこなう。 必要に応じて資料を配布する。 各回に授業内容を復習する課題を提示する。
能動的な学びの実施	毎回の課題を通して理解度の確認を行う。 学生への質問も活発に行う予定のため、積極的な授業態度が望まれる。
授業時間外の学修	【授業時間外の学習(合計60時間程度)】 予習：次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合はそれに従う。 復習：提示された課題を中心に教科書を見直し、講義ノートをまとめておく。
教科書・参考書	【教科書】 ＊リハビリテーション基礎評価学第2版,羊土社 ＊ベッドサイドの神経の診かた,南山堂 【参考書】 ＊指定なし
成績評価方法と基準	【成績評価方法と基準】 筋のまとめ（各10%×2回=20%）と定期試験の結果（80%）として総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	＊各授業回に提示する課題について、授業内またはWebclass上でフィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	授業内容により、教科書の「ベッドサイドの神経の診かた」を持参しなくても良い回があるため、あらかじめアナウンスする。「リハビリテーション基礎評価学 第2版」は毎回持参すること。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・zoomによる授業に切り替える（課題学修と組み合わせる場合がある） ②成績評価 ・定期試験成績と授業ごとに実施する理解度確認成績、および出席状況を総合的に評価する（課題提出状況も含む場合がある）

科目名称	理学療法評価学実習Ⅰ
授業コード	BG218
英語名称	Physical Therapy Evaluation PracticeⅠ
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	塚田 絵里子, 奥田 裕, 小山 優美子, 松葉 潤治
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、理学療法治療を進める上での基礎となる理学療法評価の方法の中で関節可動域測定や徒手筋力評価などの項目について、実技実習を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法治療の根拠となる理学療法評価法を理学療法士として臨床経験のある教員が各評価項目の実践的内容を分担して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに挙げられた、理学療法士として臨床場面において必要な評価法の知識と技術を習得できる。 以下を本科目の等到達目標とする。 1. 理学療法評価の意義・目的を理解する。 2. 関節可動域検査および徒手筋力検査の検査・測定方法の手順を理解する。 3. 評価時に必要なコミュニケーションや対象者に対する配慮の仕方を理解する。
計画・内容	第1・2回：科目オリエンテーション、触診①（上半身） 担当教員：塚田(理学療法士)/松葉(理学療法士)/奥田(理学療法士)/小山(理学療法士) 第3・4回：触診②（下半身） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第5・6回：実技まとめⅠ（触診） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第7・8回：関節可動域測定（小テスト、総論、上肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第9・10回：関節可動域測定（上肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第11・12回：関節可動域測定（下肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第13・14回：関節可動域測定（頸部・体幹） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第15・16回：実技まとめⅡ（関節可動域測定） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第17・18回：徒手筋力検査（総論、上肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第19・20回：徒手筋力検査（上肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第21・22回：徒手筋力検査（下肢） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第23・24回：徒手筋力検査（頸部・体幹） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山

計画・内容	第25・26回：徒手筋力検査（復習、小テスト） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第27・28回：実技まとめIII（徒手筋力検査） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山
授業の進め方	【授業の進め方】 実技の解説および実演を経て、少人数グループに分かれて、実技演習を中心に行う。 また、項目ごとに授業内で実技の確認テストを行い、理解度を確認する。
能動的な学びの実施	解説・実演時の内容を把握し、実技演習回ではスムーズに実技演習ができるように積極的に事前準備をして望む。
授業時間外の学修	【授業時間外の学習(合計60時間程度)】 予習：次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合はそれに従う。 復習：実技の練習を行い、不明な点を確認する。
教科書・参考書	【教科書】 ＊リハビリテーション基礎評価学 第2版,羊土社 ＊新・徒手筋力検査法 原著第10版,協同医書出版社 ＊運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 上肢,メジカルビュー社 ＊運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 下肢・体幹,メジカルビュー社
成績評価方法と基準	【成績評価方法と基準】 実技試験 60%(実技まとめⅠ・Ⅱ・Ⅲ)+筆記試験 40%で評価する。 実技試験ではルーブリック評価を適用する。 ※授業参加態度や小テストの実施状況を成績に加味することがある。
課題等に対するフィードバック	＊実技試験実施後に、内容につき全体にコメントを返す。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	初回ガイダンスで下記について説明するため、十分に留意すること ・実施項目ごとに使用する教科書が異なるため、間違えないように注意すること ・授業回によって集合する教室が異なる場合があるため、連絡を確認すること ・毎回の授業でケーシー着用とする。そのほか通常授業回、実技まとめ回で身だしなみについての指定があるため、注意すること ・授業内小テストで基準に満たない場合は再テストを実施する 欠席した場合の追テストや再テストを無断欠席した場合には成績に考慮する場合がある ・実技まとめは当日の授業開始時間に理由なく不在の場合は受験不可とする
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・zoomによる授業に切り替える（課題学修と組み合わせる場合がある） →online授業にて解説および演習をおこなう。 ②成績評価 ・定期試験成績と授業ごとに実施する理解度確認成績、および出席状況を総合的に評価する（課題提出状況も含む場合がある）

科目名称	理学療法評価学実習 II
授業コード	BG375
英語名称	Physical Therapy Evaluation Practice II
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	塚田 絵里子, 奥田 裕, 小山 優美子, 松葉 潤治
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、理学療法治療を進める上での基礎となる理学療法評価方法を教授する。評価項目の中で神経学的検査を中心に、他理学療法に関連する評価法の実践的な方法について、実技実習を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法治療の根拠となる理学療法評価法を理学療法士として臨床経験のある教員が各評価項目の実践的内容を分担して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに挙げられた、理学療法士として臨床場面において必要な評価法の知識と技術を習得できる 本科目では以下を到達目標とする。 1. 理学療法評価の意義・目的を理解する。 2. 検査・測定方法の手順を理解する。 3. 評価時に必要なコミュニケーションや対象者に対する配慮の仕方を理解する。
計画・内容	第1・2回：評価プロセスの理解・記録、痛みの評価・医療面接 担当教員：松葉(理学療法士)/小山(理学療法士)/塚田(理学療法士)/奥田(理学療法士) 第3・4回：血圧・形態測定 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第5・6回：反射・筋緊張検査 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山 第7・8回：感覚検査 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第9・10回：実技まとめⅠ（血圧・形態測定） 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第11・12回：実技まとめⅡ（反射検査・感覚検査） 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山 第13・14回：片麻痺機能検査 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第15・16回：脳神経検査 担当教員：松葉/塚田/奥田/小山 第17・18回：協調性検査 担当教員：奥田/塚田/松葉/小山 第19・20回：バランス検査 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山 第21・22回：その他の評価 担当教員：小山/塚田/松葉/奥田 第23・24回：骨関節系障害の評価 担当教員：松葉/塚田/奥田/小山

計画・内容	第25・26回：神経系障害の評価 担当教員：小山/塚田/松葉/奥田 第27・28回：実技まとめIII 担当教員：塚田/奥田/松葉/小山 第29・30回：実技まとめIV 担当教員：塚田/松葉/奥田/小山
授業の進め方	・実技の解説および実演を経て、実技演習を中心に行う。 ・单元ごとに実技確認テストを行い理解度を確認する。 ・各回の授業前に該当箇所の小テストを実施するため、事前に学習を進めておくこと。
能動的な学びの実施	解説・実演時の内容を把握し、実技演習回ではスムーズに実技演習ができるように積極的に事前準備をして望む。 授業項目ごとに確認テストとその解説を行い、授業項目ごとに理解度の振り返りを行う。 アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。
授業時間外の学修	【授業時間外の学習(合計60時間程度)】 予習：次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合はそれに従う。 復習：該当箇所の知識の確認、実技の練習を行い、不明な点を整理する。
教科書・参考書	【教科書】 *リハビリテーション基礎評価学第2版,羊土社 *ベッドサイドの神経の診かた,南山堂 *PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版,金原出版
成績評価方法と基準	【成績評価方法と基準】 実技試験 60%(実技まとめⅠ・Ⅱ・Ⅲ：各20%×3)+筆記試験 40% 実技試験の評価はルーブリック評価を用いる。 授業参加態度や課題提出状況、小テストの実施状況を成績に加味することがある。
課題等に対するフィードバック	*各回に小テストを実施し、その場で解答を確認する。 *実技試験実施後は、個別あるいは全体に口頭でフィードバックを実施する。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	初回ガイダンスで下記事項について説明するため、十分に留意すること ・各回の使用教科書について ・集合場所は基本的に指定教室となるが、指示がある場合はそれに従うこと ・服装は原則として毎回ケーシーとする。その他通常授業回、実技試験回で身だしなみに関する諸注意があるため、留意すること ・授業内小テストにおいて一定の基準に満たない場合は再テストを実施する。 小テストを欠席した場合の追テスト、再テストを無断欠席した場合には成績に考慮する場合があるため、注意すること ・実技試験では、13:10の説明開始時に特別な理由なく不在の場合は原則として受験不可とする
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・zoomによる授業に切り替える(課題学修と組み合わせる場合がある) →online授業にて解説および演習をおこなう。 ②成績評価 ・定期試験成績と授業ごとに実施する理解度確認成績、および出席状況を総合的に評価する(課題提出状況も含む場合がある)

科目名称	運動療法学総論
授業コード	BG260
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	塚田 絵里子, 安田 耕平, 芹田 透
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	運動療法学は、理学療法の最も大きな柱として位置づけられており、解剖学や生理学、運動学などを背景に成り立っている学問である。それらの知識を統合しながら運動療法を体系的に学び、実践に結びつける必要がある。 本授業では、臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、身体の運動による反応や運動についての効果などを踏まえて、基本的な運動療法を理解できるよう講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士が行う治療の中でも運動療法学は重要な位置づけとなっている。長年臨床経験を持つ理学療法士が科目を担当し、その経験を活かして講義を行う。
到達目標	本学が掲げるディプロマ・ポリシーの基礎医学および理学療法学に関する知識の習得を目指す。 1)運動が身体に与える影響を、解剖・生理・運動学的観点から理解する。 2)基本的な運動療法手技の原理および実施方法を理解する。
計画・内容	第1回 運動学の基礎知識 担当：芹田(理学療法士) 第2回 関節運動 担当：芹田 第3回 筋と筋収縮 担当：芹田 第4回 関節可動域運動 担当：芹田 第5回 筋力増強運動 担当：芹田 第6回 随意運動と運動制御の生理 担当：塚田(理学療法士) 第7回 運動制御と運動学習 担当：塚田 第8回 運動と神経 担当：塚田 第9回 協調性運動・バランス運動 担当：塚田 第10回 ウィメンズヘルス分野の理学療法 担当：塚田 第11回 運動と呼吸 担当：安田(理学療法士) 第12回 運動と循環 担当：安田 第13回 運動と代謝 担当：安田 第14回 持久力増強運動 担当：安田

計画・内容	第15回 まとめ 担当：塚田・芹田・安田
授業の進め方	・授業は教科書とスライドを用いて進行する。必要に応じて、他の視覚教材の利用やWebclass上に資料をアップロードする。 ・自己学習用課題を提示する。
能動的な学びの実施	本科目は、運動療法の一部を学生同士で実際に体験する体験学習を含む。また、あらかじめ提示された問題を授業の中で解き、解説を考えるなど、問題解決型学修も一部取り入れて行う。
授業時間外の学修	予習：あらかじめ教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと (各回1時間程度) 復習：Webclassにアップロードされた自己学習用課題を中心に教科書や配布資料を見直し、講義ノートを整理しておくこと (各回1～2時間程度)
教科書・参考書	【教科書】吉尾雅春 監修「運動療法学 総論 第5版」(医学書院)
成績評価方法と基準	定期試験(100%)にて評価する。
課題等に対するフィードバック	自己学習用課題に関する質疑応答を第15回の講義内で実施する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①オンライン上で双方向性の講義を行う。 ②小テスト(15%) 理解度確認(35%)、定期試験(50%)にて評価する。 試験はオンライン上でMicrosoft Forms等を使用して実施する。

科目名称	運動療法学実習
授業コード	BG323
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	芹田 透, 塚田 絵里子, 安田 耕平, 廣瀬 昇
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	対象者の機能障害を改善するには運動療法は主要な手段となる。適切な運動療法を実施するためには、正しい解剖学・運動学の知識に基づいた技術が必要となる。 本授業では、臨床の現場で長年理学療法士として従事した教員が、その経験を活かして基本的な運動療法技術を教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指すうえで必要な基本的運動療法技術を、広範囲な分野において豊富な臨床経験を有する教員が教授する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる、「理学療法士国家資格に準拠した医学的知識及び理学療法を十分に理解し、理学療法士としての基本的な臨床技能が実践できる」知識・技術レベルに到達することを目指し、以下のよう な到達目標を設定する。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 基本的な知識・技術を習得することにより、安全で効果的な運動療法を実施できるようになること。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 技術者としての理学療法として、専門的な技術を身につけることができる。
計画・内容	1. 関節可動域運動・ストレッチング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 上肢帯、上肢 2. 関節可動域運動・ストレッチング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 上肢帯、上肢 3. 関節可動域運動・ストレッチング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 下肢 4. 関節可動域運動・ストレッチング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 下肢 5. 筋力増強トレーニング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 ① 上下肢・体幹の筋力トレーニングの技法を学ぶ ② (自重によるトレーニング、器具を用いたトレーニング) 6. 筋力増強トレーニング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 ① 上下肢・体幹の筋力トレーニングの技法を学ぶ ② (自重によるトレーニング、器具を用いたトレーニング)

計画・内容	寝返り・起き上がり・立ち座り練習 9. 実技復習 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 (関節可動域運動・ストレッチング、筋力増強トレーニング) (バランストレーニング・基本動作) 10. 実技試験 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 (関節可動域運動・ストレッチング、筋力増強トレーニング) 11. 実技試験 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 (バランストレーニング・基本動作) 12. 実技試験フィードバック 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 (関節可動域運動・ストレッチング、筋力増強トレーニング) (バランストレーニング・基本動作) 13. 実技最終確認試験 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 (関節可動域運動・ストレッチング、筋力増強トレーニング) (バランストレーニング・基本動作) *全教員が、脳血管障害分野、運動器障害分野、内部障害分野などで15年以上の実務経験を有する
授業の進め方	実技を中心に実施する。基本的な解剖学、運動学の知識は必須となるため、授業前に該当範囲を復習すること。
能動的な学びの実施	臨床における実践を想定し、治療理論に基づいた運動療法を実技練習から習得する。
授業時間外の学修	授業前に体表解剖や触診のポイントについて、教科書を用いて予習をする。また、授業後には繰り返し技術練習をおこなうこと（各回1時間～2時間）。
教科書・参考書	【教科書】 市橋則明 編「運動療法学 障害別アプローチの理論と実践 第2版」(文光堂)
成績評価方法と基準	実技試験成績（100%）
課題等に対するフィードバック	授業内で学生の理解が困難な内容があれば、次回以降の授業で資料配付や追加説明によりフィードバックを行う。
オフィスアワー	campus square 参照
留意事項	本授業を受講するにあたり、運動学や機能解剖学の知識を再確認することが望ましい。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①zoomによるオンライン授業を実施する ②google フォームを使用して理解度確認を実施（50%）。出席状況（50%）。

科目名称	物理療法学・実習
授業コード	BG217
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	中山 彰博, 眞保 実, 豊田 輝
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この授業では、各種の物理療法機器原理を学び、その操作方法を理解する。 その上で、各種の物理療法機器を使用した具体的課題実習を実施し結果を導き、それを解析しレポートを作成する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	20年以上理学療法士として活動して来た臨床経験を有する教員が機器の原理、操作技術を具体的に教示する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーの知識、理解における理学療法学に関する知識、及び汎用的技能としての理学療法治療法の修得を目的としている。 その実現のため、具体的目標として下記の項目が挙げられる。 ・物理療法各機器の原理を理解できる ・物理療法各機器の適応と禁忌を言うことができる ・物理療法各機器を操作することができる
計画・内容	【第1回・第2回】 物理療法学総論（テキスト：p1～p26）担当教員：中山彰博（理学療法士） 温熱療法（テキスト：p30～p70）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第3回・第4回】 温熱療法（テキスト：p30～p70）担当教員：中山彰博（理学療法士） 光線療法（テキスト：p228～p259）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第5回・第6回】 寒冷療法（テキスト：p74～p95）担当教員：中山彰博（理学療法士） 水治療法（テキスト：p98～p115）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第7回・第8回】 電気療法（テキスト：p118～p202）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第9回・第10回】 バイオフィードバック療法（テキスト：p206～p225）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第11回・第12回】 徒手療法（テキスト：p262～p283）担当教員：中山彰博（理学療法士） 牽引療法（テキスト：p286～p299）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第13回・第14回】 圧迫療法（テキスト：p302～p317）担当教員：中山彰博（理学療法士） 振動療法（テキスト：p324～p343）担当教員：中山彰博（理学療法士） 【第15回・第16回】 ①班から⑫班のクラス分けを実施する。 各種の物理療法機器に対して各班は12課題を分担して実行する。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・ 豊田 輝（何れも理学療法士） 【第17回・第18回】 受講生は第15回・第16回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入す

計画・内容	る。担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士） 【第19回・第20回】 受講生は第15回～第18回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士） 【第21回・第22回】 受講生は第15回～第20回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士） 【第23回・第24回】 受講生は第15回～第22回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士） 【第25回・第26回】 受講生は第15回～第24回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士） 【第27回・第28回】 受講生は第15回～第26回で経験した物理療法機器以外の課題を実施し結果を得る。 各課題に対しては実習機器毎に担当教員が対応しリスク管理を実施し正常な反応が得られる様に介入する。 担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士） 【第29回・第30回】 受講生は第15回～第28回授業で経験した物理療法機器を活用した学習課題を再確認し、得られた知見や疑問点に関して更に追実習を実施し理解を深める。各課題に対しての質疑応答は機器毎に担当教員が対応し臨床実習に際して応用可能な段階を目標に介入する。担当教員：中山彰博・眞保 実・豊田 輝（何れも理学療法士）
授業の進め方	・実習を行うため、クラスを細分化し12班のグループに分ける。その各々のグループは第15回～28回の実習授業に際してローテーションを行いながら各物理療法機器の実習を行う。 ・実習後、各個人毎に実習の課題レポートを作成し提出する。 ・授業の間には、復習の意味で小テストを行い理解を深める。
能動的な学びの実施	12グループに分かれ、各種物理療法機器ごとに課題実習を行い、その時に得られた結果データを元に課題レポートを作成する。
授業時間外の学修	予習：テキストを読む（30分） 復習：課題レポートの作成（1時間）
教科書・参考書	教科書：網本 和、他・編集『物理療法学（第5版）』（医学書院）定価4,800円 参考書：上杉雅之・監修『イラストでわかる物理療法』（医歯薬出版）4,400円（税込） 石川 朗、総監修『15 レクチャーシリーズ、理学療法テキスト、物理療法学・実習』（中山書店）定価2,400円 沖田 実・編集『理学療法学テキスト IX 物理療法』（神陵文庫）4,860円（税込） Michelle H.Cameron・編著／渡部一郎・訳『EBM物理療法（原著第3版）』（医歯薬出版）9,720円（税込）
成績評価方法と基準	・授業で提示した課題による評価：40% ・期末試験：50% ・授業態度（修学姿勢・実習参加態度）の評価：10%
課題等に対するフィードバック	・完成度が低いレポートに関しては、再提出を求める。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	・実習時は、肌露出のし易さや衣服汚れに留意し白衣（ケーシー）着用を推奨する。 ・授業中は飲食及び音楽プレーヤー等の使用を禁止する。情報確認の為にPC・タブレット・スマートフォン、等々の使用は許可するが、遊具としての使用は禁ずる。

非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・ Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ②成績評価方法 ・ 授業中課題40%、期末試験（Zoomによるオンライン試験）50%、および授業態度10%で評価する。
--------------------------------------	---

科目名称	補装具学
授業コード	BG327
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	豊田 輝
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	リハビリテーションとは残存した機能を最大限に活用し、より人間らしい生活を獲得することである。残存した機能を補助するものの一つとして義肢・装具があり、古くからリハビリテーション手段として用いられてきている。そこで本講では、理学療法士として義肢・装具を用いた理学療法に精通し、臨床経験豊富な教員が解剖学・運動学などの基礎知識をもとに理学療法士として必要不可欠である義肢・装具療法の原理、目的および適応疾患について講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指すうえで必要な装具学・義肢学の概要や個々の補装具類の名称や特徴、適応、チェックアウトについて、理学療法士として臨床・教育・研究において経験豊富な教員が講義する。
到達目標	本科目は、カリキュラム・ポリシーに掲げる「理学療法の実践を学ぶために、理学療法士として必要な実践的臨床能力と知識の統合を図り、理学療法の基礎や評価法、治療学などの専門科目」であるため、理学療法士として必要不可欠である義肢・装具療法における基本的な知識を身につける。
計画・内容	担当教員：全コマ 豊田 輝（理学療法士） 1. 装具学概論、継手の種類と機能、KAFOのチェックアウト 2. 脳卒中片麻痺の装具
授業の進め方	指定教科書に沿いながら適宜、プリントを配布し、パワーポイントを使用した授業形式で講義を行う。また、技術の習得を伴う内容では、適宜、実習を行う。
能動的な学びの実施	実際に補装具類を手に取り学ぶ機会を設けるほか、装着体験や取り扱い体験を通じて理学療法士としての臨床応用に繋がる学修機会を設ける。その他、復習用のオンデマンド教材も積極的に活用することを推奨し、講義内容の理解を深める機会を提供する。
授業時間外の学修	教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計 60 時間程度）

教科書・参考書	教科書：豊田 輝・石垣栄司編集、「義肢・装具学（第2版） 異常とその対応がわかる動画付き」、羊土社、2016年
成績評価方法と基準	課題レポート（20%）+定期試験（80%）
課題等に対するフィードバック	授業内容や課題レポート内容に対する学生からの質問に対して、授業内や資料配布等で適宜、フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	授業には指定教科書を必ず持参すること（教科書内QRコードからの動画視聴あり）。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 講義内容に応じて「zoomによるオンライン授業」あるいは「動画配信によるオンデマンド授業」とする。 ②成績評価方法 授業中課題50%と期末課題レポート50%で評価する。

科目名称	日常生活活動学
授業コード	BG205
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	奥田 裕, 安田 耕平
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	日常生活活動（Activities of daily living ; ADL）の概念、障害、評価、支援機器について基礎的な知識を修得し、日常生活活動について理解を深める。 キーワード ; ADLの概念、ADLの分類、ADLの評価、基本動作、複合動作、生活関連動作、QOL、ICF
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、日常生活活動の概念、評価方法、支援機器などについての講義を行う。
到達目標	本学のディプロマ・ポリシーに掲げる理学療法学に関する知識を身につけることを目標とする。具体的には以下の項目の習得を目指す。 ・日常生活活動に関する理学療法士国家試験に準拠した専門的知識を習得できる。 ・理学療法士に必要な理学療法学における日常生活活動の位置づけと、その背景となる医療との関係について理解する。 ・日常生活活動の概念、および評価、支援機器を含めたその活用法について理解する。 ・健康者と障害者との相違点を認識し、障害者の日常生活活動の方法について理解する。
計画・内容	第1回 日常生活活動の概念 担当：奥田 (理学療法士)/ 安田(理学療法士) 第2回 日常生活活動の評価(総論) 担当：奥田 / 安田 第3回 日常生活活動の評価(代表的評価指標) 担当：安田 / 奥田 第4回 日常生活活動の評価(実践) 担当：安田 / 奥田 第5回 基本動作(寝返り、起き上がり) 担当：奥田 / 安田 第6回 基本動作(立ち上がり、歩行) 担当：奥田 / 安田 第7回 歩行補助具 担当：奥田 / 安田 第8回 車椅子・座位保持装置 担当：安田 / 奥田 第9回 歩行補助具実技 担当：奥田 / 安田 第10回 車椅子・座位保持装置実技 担当：安田 / 奥田 第11回 日常生活用具・自助具 担当：奥田 / 安田 第12回 セルフケア(食事、整容、更衣) 担当：安田 / 奥田 第13回 セルフケア(排泄、入浴) 担当：安田 / 奥田 第14回 まとめ 担当：奥田 / 安田 第15回 身体活動量 担当：安田 / 奥田
授業の進め方	スライドや配布資料を使用し、教科書に沿って講義する。 個人課題、課題に対するグループ学修も実施。 必要に応じて実技演習も実施する。

授業の進め方	
能動的な学びの実施	グループ学修や実技演習を適宜行うことで、学生の能動的な参加を期待できる。
授業時間外の学修	予習：授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間） 復習：教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること（各回1時間～2時間）
教科書・参考書	【教科書】臼田滋編集「Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学」メジカルビュー 石井慎一郎「動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」メジカルビュー 【参考書】鶴見隆正,他編集「標準理学療法学専門分野日常生活活動学・生活環境学」医学書院 千住秀明 監修「日常生活活動（ADL）第2版」神陵文庫
成績評価方法と基準	定期試験(100%)により評価する。 なお、出席状況、授業態度、授業内テスト、授業内課題等についても、成績評価に加味する。
課題等に対するフィードバック	小テスト,レポートに関しては、適宜フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	シラバスに従い、事前に教科書を必ず熟読し予習すること。 自前のノートを作成すること。 実習の際は、動きやすい服装で出席すること。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①オンライン上で双方向性の講義を行う。 ②定期試験(100%)にて評価する。状況に応じて、対面・非対面の実施方法は検討する。

科目名称	日常生活活動学実習
授業コード	BG280
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	金子 千香, 奥田 裕, 安田 耕平
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「日常生活活動学」で学んだ考え方、方法、知識を基に、さまざまな疾患や障害状況に対する日常生活活動の評価および指導方法や介助に関わる知識ならびに手技を修得する。とくに、対象者の日常生活活動のベースとなる基本動作（起居動作や、移動時の杖・車椅子等の活用など）の評価、指導、介助などに関わる基本的な手技を体得し、さまざまな疾患や障害状況に対する適用・応用能力を培う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員がその経験を活かし、日常生活活動の評価および指導方法や手技について、代表的な疾患・障害別に理解が深まるよう講義と実技実習を行う。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに則り、理学療法の実践を学ぶために、理学療法士として必要な実践的臨床能力と知識の統合を図ることを目標とする。具体的な目標は以下の通りである。 1. 理学療法士として日常生活活動（ADL）を可能にする身体機能、基本動作、生活動作・行為の関係を理解する。 2. 理学療法の対象となる主要疾患や障害（片麻痺・脊椎損傷・脳性麻痺・関節リウマチ・変形性関節症・下肢切断・呼吸器疾患・循環器疾患・神経筋疾患・難病など）の特徴とそれに対応したADLの関連を理解する。 3. 各疾患・障害に応じたADL評価および指導の特徴を説明できる。 4. 各疾患・障害に応じたADLのうち、とくに基本動作（起居動作や、移動時の杖・車椅子の活用など）の評価、指導方法（遂行と能力獲得）、介助に関わる手技を説明して実施できる。 カリキュラムポリシーに則り、2年次前期科目「日常生活活動学」での学習内容を踏まえた上でアクティブ・ラーニングを取り入れた往還的な授業により上記目標達成を目指す。
計画・内容	第1回 ガイダンス、理解度確認 担当：金子（理学療法士） 第2回 ADLに対するアプローチと分析・評価 担当：金子 第3回 起居動作（1）臥位・寝返り・起き上がり 担当：奥田（理学療法士） 第4回 起居動作（2）臥位・寝返り・起き上がり 担当：奥田 第5回 起居動作（3）立ち上がり・移乗・歩行 担当：奥田 第6回 起居動作（4）立ち上がり・移乗・歩行 担当：奥田 第7回 片麻痺（1）障害像とADL 担当：奥田 第8回 片麻痺（2）指導の実際とポイント 奥田 第9回 片麻痺（3）障害像とADL 担当：奥田 第10回 片麻痺（4）指導の実際とポイント 奥田 第11回 高次脳障害・認知症（1）障害像とADL 担当：奥田 第12回 高次脳障害・認知症（2）指導の実際 担当：奥田 第13回 脊椎損傷（1）障害像とADL 担当：金子

計画・内容	第14回 脊椎損傷（2）指導の実際とポイント 担当：金子 第15回 関節リウマチ・膠原病（1）障害像とADL 担当：金子 第16回 関節リウマチ・膠原病（2）指導の実際とポイント 担当：金子 第17回 下肢変形性関節症（1）障害像とADL 担当：金子 第18回 下肢変形性関節症（2）指導の実際とポイント 担当：金子 第19回 下肢切断（1）障害像とADL指導の実際とポイント 担当：安田（理学療法士） 第20回 脳性麻痺（1）障害像とADL指導の実際とポイント 担当：安田 第21回 神経筋疾患・難病（1）障害像とADL 担当：金子 第22回 神経筋疾患・難病（2）指導の実際とポイント 担当：金子 第23回 呼吸器・循環器疾患（1）障害像とADL 担当：安田 第24回 呼吸器・循環器疾患（2）指導の実際 担当：安田 理解度確認、試験（別途） ＊全教員が理学療法士として15年以上の実務経験を有する。 ※講義、実技演習の配分、対面・非対面形式については大学ならびに学科の方針により決定・変更します。履修登録者には大学メールやWebclassまたはCampusSquare掲示板にてお知らせしますのでこまめに確認をして下さい。（CampusSquare以外の方法で履修登録される方は事前に金子までメールにてご連絡ください。） ※非対面形式で実施される場合がありますので、通信機器ならびに通信環境の整備をお願いします。難しい場合は事前に金子までメールにてご相談ください。
授業の進め方	・教科書と配布・配信資料に沿って行う。 ・必要に応じて資料、映像を教材とする。 ・実技実習は、計画・指導のもと、実施者、モデル、助言者等を体験学習する。
能動的な学びの実施	・学習のポイントの確認とその解説を行い、理解度の振り返りを行う。 ・学生自らが考え実践することが学びとなるため積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・「日常生活活動学」の復習 ・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、学習テーマの要点を確認して不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間）。 ・講義後は教科書や資料および実習で学んだポイントを整理し、また、理解の補足や確認を要する事柄を調べてノートにまとめること（各回1時間～2時間）
教科書・参考書	教科書：「日常生活活動学」の教科書（下記）を継続して用い、必要に応じて資料を配布する。 臼田滋編集、Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学 メジカルビュー社） 石井慎一郎(編)、動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メジカルビュー社 その他、必要に応じて講義時に紹介する。
成績評価方法と基準	実技試験30%、課題提出状況・記述試験70%。授業参加状況（※出席だけではなく能動的な参加状況による）に応じて、総合成績に反映する。 課題内容が不十分の場合には課題の再提出や補講、再試験を実施することがある。 能動的な学びが主体であるため、全講義出席することが望ましい。 やむを得ず欠席をした場合は講義担当教員に相談をして課題や補習の指示を仰ぐこと。 受講に際して不適切な行為（学生証の不正使用や授業の録音録画、課題・試験時の不正等）が発覚した場合は単位を認めない場合がある。

課題等に対するフィードバック	リアクションに応じて適宜補足説明を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照 メールにて随時
留意事項	初回授業はガイダンスを含みます。履修希望学生は必ず出席して下さい。 授業中、学習のための質疑や討議、実技や動作・手技の確認に積極的に参加して下さい。 授業時間以外の質問等は担当教員金子まで。メールにて随時受け付けます。 金子メールアドレス：c-kaneko@ntu.ac.jp
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせる。 ②成績評価方法 ・授業参加状況（※出席だけではなく能動的な参加状況による）10%、課題提出状況50%、試験成績40%から総合的に評価する。 ・課題内容が不十分の場合には課題の再提出や補講、再試験を実施することがある。

科目名称	スポーツ障害理学療法学
授業コード	BG385
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	関根 千恵, 新規未定教員
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	スポーツが原因で生じる外傷・障害、スポーツ障害に対する理学療法評価および治療方法について講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士（スポーツ理学療法認定理学療法士）、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を有する教員が、スポーツ現場での経験を基に各種スポーツ傷害に対するリハビリテーションプログラムを実技を交えて実践的に講義する。
到達目標	本学のディプロマ・ポリシーに掲げる理学療法士として業務を行う上で必要な専門的な評価法・治療法を修得し、問題解決能力を培って実践できる。本科目では以下を到達目標とする。1.スポーツ傷害について理解する。2.スポーツ傷害の発症メカニズムについて理解する。3.スポーツ傷害に対する評価と理学療法について理解する。
計画・内容	第1回 スポーツ傷害の評価および理学療法の考え方について① 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第2回 スポーツ傷害の評価および理学療法の考え方について② 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第3回 スポーツ傷害の評価および理学療法の考え方について③ 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第4回 体幹のスポーツ傷害の評価と理学療法① 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第5回 体幹のスポーツ傷害の評価と理学療法② 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第6回 肩関節のスポーツ傷害の評価と理学療法① 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第7回 肩関節のスポーツ傷害の評価と理学療法② 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第8回 股関節・大腿部のスポーツ傷害の評価と理学療法 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第9回 膝関節のスポーツ傷害の評価と理学療法① 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第10回 膝関節のスポーツ傷害の評価と理学療法② 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT）

計画・内容	第11回 足部・足関節のスポーツ傷害の評価と理学療法① 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第12回 足部・足関節のスポーツ傷害の評価と理学療法② 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第13回 スポーツ現場でおこなうスポーツ傷害に対する対応（実技）① 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第14回 スポーツ現場でおこなうスポーツ傷害に対する対応（実技）② 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT） 第15回 理解度確認 担当 関根（スポーツ理学療法認定理学療法士、JSPO-AT）
授業の進め方	【授業の進め方】 POWER POINT等で資料を提示し座学にて知識面の整理を行い、実技要素も多く取り入れ技術面の習得も行う。 ・授業の進行状況により適宜授業構成を構築する。授業時間等の変更（曜日：時限等）あり。 ・初回ガイダンス時に概要提示
能動的な学びの実施	グループワークやディスカッションも取り入れ、さらに実践的な実技を行うため積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	【授業時間外の学習(合計60時間程度)】 予習:次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合には従う。 復習:不明点を明確にしておく。実技の練習を実施する。
教科書・参考書	【教科書】 指定なし 【参考書】 ・スポーツ理学療法学ー競技動作と治療アプローチ、 ・スポーツ理学療法プラクティス急性期治療とその技法、 ・スポーツ理学療法プラクティスー機能評価診断とその技法 ・適宜指示する
成績評価方法と基準	定期試験 100% に出席状況、授業態度（出席状況）を総合的に評価する。 なお、理解度確認テスト等を実施した場合はそれも評価に含まれる。
課題等に対するフィードバック	・授業回に理解度確認をを実施した場合、次回授業内に解説・フィードバックを行う。 ・学生の発言・発表の都度、コメントを行う。 ・レポート課題実施の場合、コメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	実技実習の授業時は動きやすい服装(ケーシー)を着用すること。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	原則としてすべての授業は対面形式で実施予定 感染症等拡大の影響で対面授業が困難になった場合は以下の通りに進める予定である。 ただし、大学側の判断により一部変更の可能性もある。 ①授業の進め方 ・zoomによる授業に切り替える。（課題学修と組み合わせる場合がある） ②成績評価 ・定期試験成績と授業ごとに実施する理解度確認成績、および出席状況を総合的に評価する。 （課題提出状況も含む場合がある）

科目名称	運動器障害理学療法学
授業コード	BG324
英語名称	
学期	2025年度通年（前・後）
単位	4.0
担当教員	小山 優美子, 関根 千恵, 新規未定教員
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	本科目はこれまで学習した解剖学、運動学、整形外科学などの知識をもとに、代表的な運動器疾患の病態とそれに伴う機能障害への理解を深めることを目的とする。さらに、それらの疾患に対する理学療法評価、治療を理学療法士としての実務経験のある教員とともに、座学と実技を通して学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法治療の対象として比較的多い運動器障害に対する理学療法の考え方と介入に関して臨床経験のある教員が各評価項目の実践的内容を分担して講義する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに挙げられた、理学療法士として運動器障害に対する臨床場面において必要な知識と技術を習得できる。 以下を本科目の等到達目標とする。 1：運動器に関連した疾患、障害について、理解を深める。 2：疾患・障害に応じて、最適な評価を選択できるようになる。 3：リスク管理を行いながら、適切な理学療法を施行できる知識・技術を身につける。
計画・内容	【前期】 第1回：組織再生・修復－総論 担当：小山（理学療法士） 第2回：骨折と脱臼②－各論（骨折の病理と治療課程） 担当：小山（理学療法士） 第3回：骨折と脱臼②－各論（骨折・脱臼の各種病態と理学療法） 担当：小山（理学療法士） 第4回：高齢者の運動特性とロコモティブシンドローム・フレイル 担当：小山（理学療法士） 第5回：変形性関節症①（病理病態と関節の運動学） 担当：小山（理学療法士） 第6回：変形性関節症②（変形性膝関節症に対する理学療法） 担当：小山（理学療法士） 第7回：変形性関節症③（変形性股関節症に対する理学療法） 担当：小山（理学療法士） 第8回：変形性関節症④（人工関節置換術後の理学療法） 担当：小山（理学療法士） 第9回：関節リウマチの理学療法 担当：小山（理学療法士） 第10回：脊椎疾患の理学療法①（病理病態と脊椎の運動学） 担当：関根（理学療法士） 第11回：脊椎疾患の理学療法②（頸椎疾患の理学療法） 担当：関根（理学療法士） 第12回：脊椎疾患の理学療法③（腰椎疾患の理学療法） 担当：関根（理学療法士） 第13回：脊髄損傷の理学療法 担当：小山（理学療法士） 第14回：末梢神経障害の理学療法 担当：小山（理学療法士） 第15回：前期まとめ 担当：小山・関根（理学療法士） 【後期】 第16回：肩関節疾患の理学療法①（病理病態と肩関節の運動学） 担当：関根（理学療法士） 第17回：肩関節疾患の理学療法②（理学療法評価・治療） 担当：関根（理学療法士） 第18回：足部・足関節疾患の理学療法①（病理病態と足部の運動学） 担当：関根（理学療法士） 第19回：足部・足関節疾患の理学療法②（理学療法評価・治療） 担当：関根（理学療法士） 第20回：熱傷・外科手術後の運動器障害に対する理学療法 担当：小山（理学療法士） 第21回：股関節疾患に対する理学療法の実際 担当：小山・関根（理学療法士） 第22回：膝関節疾患に対する理学療法の実際 担当：小山・関根（理学療法士）

計画・内容	第23回：足関節疾患に対する理学療法の実践 担当：小山・関根（理学療法士） 第24回：脊椎疾患に対する理学療法の実践 担当：小山・関根（理学療法士） 第25回：末梢神経障害に対する理学療法の実践 担当：小山・関根（理学療法士） 第26回：肩関節疾患に対する理学療法の実践 担当：小山・関根（理学療法士） 第27回：実技理解度確認 担当：小山・関根（理学療法士） 第28回：運動器障害理学療法まとめ① 担当：小山（理学療法士） 第29回：運動器障害理学療法まとめ② 担当：関根（理学療法士） 第30回：総まとめ、理解度確認 担当：小山・関根（理学療法士）
授業の進め方	本科目は座学と実技演習を行う。 座学では運動器障害の病態とその背景となる運動学について知識を定着させることを目的に教科書中心に配付資料を参照しスライド等を活用して授業を進める 後期に行う実技演習においては各種疾患に対する整形外科テストや理学療法評価、治療について教員がデモンストレーションおよび解説をおこないその内容を実践する ＊後期授業に関して、授業時間（曜日・時限）の変更あり
能動的な学びの実施	各担当教員ごとに座学および実技演習をおこなうため、積極的な授業態度が望まれる。
授業時間外の学修	【授業時間外の学習(合計60時間程度)】 予習：次回授業内容に関して基本的な理解を得ておく。指示がある場合には従う。 復習：不明点を明確にしておく。実技の練習を実施する。
教科書・参考書	【教科書】 ＊Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学（加藤浩編、メジカルビュー社） ＊適切な判断を導くための整形外科徒手検査法エビデンスに基づく評価精度と検査のポイント（松村将司・三木貴弘編、メジカルビュー社） 【参考書】 ＊病気が見える vol.11 運動器・整形外科（メディックメディア）
成績評価方法と基準	下記の総合得点により、成績判定を行う。 前期終了後に実施する前期理解度確認テスト（30%） 後期授業内で行う実技理解度確認テスト（20%） 前・後期授業終了後に行う総合試験（50%）
課題等に対するフィードバック	＊理解度確認を実施した場合、次の授業内で 解説・フィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	＊実技実習の授業時は動きやすい服装(ケーシー)を着用すること、ならびに身だしなみを整えること(頭髪：長さ/色・爪：長さ/色・装飾品着用不可等)。 ＊後期授業後半の実技に関しては実施曜日の変更の予定（詳細は授業内で伝達）
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評	原則としてすべての授業は対面形式で実施予定 感染症等拡大の影響で対面授業が困難になった場合は以下の通りに進める予定である

価方法と基準」	ただし、大学側の判断により一部変更の可能性もある ①授業の進め方 ・ zoomによる授業に切り替える（課題学修と組み合わせる場合がある） →online授業にて解説および演習をおこなう ②成績評価（非対面对応） ・ 前期理解度確認テスト25%、定期試験成績50%と授業ごとに実施する理解度確認成績25%とする（課題提出状況も含む場合がある）
---------	---

科目名称	神経障害理学療法学
授業コード	BG335
英語名称	
学期	2025年度通年（前・後）
単位	4.0
担当教員	塚田 絵里子, 奥田 裕, 潮見 泰藏, 眞保 実
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	脳血管障害、神経筋疾患などの神経障害は、障害像も多様かつ複雑である。理学療法評価にあたっては、脳の構造や機能についての理解も求められる。病態や症状、また障害された機能がどのように回復するかを理解した上で治療展開を考える必要がある。本授業では、病態の理解および理学療法評価、治療方法について講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士が対象とする疾患で、中枢神経疾患はその多くを占める。当科目を担当するのは長年の臨床経験を持つ理学療法士であり、その経験を活かして講義を行う。
到達目標	本学のディプロマ・ポリシーに掲げる理学療法学に関する知識を身につけることを目標とする。具体的には以下の項目の習得を目指す。 ・中枢神経障害、神経筋疾患、末梢神経障害の病態を理解し、病期に応じた理学療法を理解する。 ・理学療法に必要な評価項目を列挙し、実施するための基礎知識および技術を習得する。 ・臨床での実践につながる理学療法治療に関する基礎知識を習得する。
計画・内容	第1回 神経系の機能と構造① 担当：奥田(理学療法士) 第2回 神経系の機能と構造② 担当：奥田(理学療法士) 第3回 脳梗塞の病態と医学的治療 担当：奥田(理学療法士) 第4回 脳出血の病態と医学的治療 担当：奥田(理学療法士) 第5回 脳卒中急性期（症状とリスク管理） 担当：塚田(理学療法士) 第6回 脳卒中急性期（理学療法介入） 担当：塚田(理学療法士) 第7回 脳卒中回復期（理学療法評価） 担当：塚田(理学療法士) 第8回 脳卒中回復期（高次脳機能障害①） 担当：塚田(理学療法士) 第9回 脳卒中回復期（高次脳機能障害②） 担当：塚田(理学療法士) 第10回 脳卒中回復期（痙縮に対する理学療法） 担当：奥田(理学療法士) 第11回 脳卒中回復期（肩に対する理学療法とADL） 担当：奥田(理学療法士) 第12回 脳卒中回復期（片麻痺の歩行の特徴） 担当：奥田(理学療法士) 第13回 脳卒中回復期（歩行障害に対する理学療法） 担当：奥田(理学療法士) 第14回 脳卒中維持期（嚥下障害に対する理学療法） 担当：奥田(理学療法士) 第15回 脳卒中維持期（理学療法の実践・予後予測） 担当：奥田(理学療法士) 第16回 頭部外傷および脳腫瘍 担当：塚田(理学療法士) 第17回 まとめ①：中枢神経障害と理学療法 担当：塚田/眞保(理学療法士) 第18回 パーキンソン病（症状・障害の理解） 担当：塚田(理学療法士) 第19回 パーキンソン病（理学療法の理論と実際） 担当：塚田(理学療法士) 第20回 脊髄小脳変性症（症状・障害の理解） 担当：塚田(理学療法士) 第21回 脊髄小脳変性症（理学療法の理論と実際） 担当：塚田(理学療法士) 第22回 筋萎縮性側索硬化症（症状・障害の理解） 担当：眞保(理学療法士) 第23回 筋萎縮性側索硬化症（理学療法の理論と実際） 担当：眞保(理学療法士) 第24回 多発性硬化症（症状・障害の理解） 担当：眞保(理学療法士) 第25回 多発性硬化症（理学療法の理論と実際） 担当：眞保(理学療法士) 第26回 筋ジストロフィー（症状・障害の理解） 担当：眞保(理学療法士)

計画・内容	第27回 筋ジストロフィー（理学療法の理論と実際） 担当：眞保(理学療法士) 第28回 多発性筋炎・皮膚筋炎 担当：眞保(理学療法士) 第29回 ギランバレー症候群 担当：眞保(理学療法士) 第30回 まとめ②：神経筋疾患と理学療法 担当：眞保/塚田(理学療法士)
授業の進め方	・スライドや配布資料を使用し、教科書に沿って講義する。 ・適時小テストを実施する。
能動的な学びの実施	講義内でも課題や演習を取り入れ、質疑応答も行うため、積極的な参加態度が望ましい。
授業時間外の学修	予習：授業前に教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと （各回1～2時間程度） 復習：教科書・資料を見直し、講義ノートを整理すること （各回1～2時間程度）
教科書・参考書	【教科書】 ・潮見泰蔵 編集：「ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション 第2版」羊土社 ・「病気がみえる vo.7 脳・神経」MEDIC MEDIA 【参考書】 ・潮見泰蔵、下田信明 編集： 「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版」 羊土社 ・田崎義昭、斎藤佳雄 著：「ベッドサイドの神経の診かた」南山堂
成績評価方法と基準	まとめ①を60%、まとめ②を40%として評価する。
課題等に対するフィードバック	小テストや講義内課題を実施した場合は、講義内で解説等を実施する。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①オンライン上（Zoomなどの使用）で双方向性の講義を行う。 ②まとめ①を60%、まとめ②を40%として評価する。 まとめは、オンライン上でMicrosoft Forms等を使用して実施する。

科目名称	内部障害理学療法学
授業コード	BG329
英語名称	
学期	2025年度通年（前・後）
単位	4.0
担当教員	廣瀬 昇, 中山 彰博, 安田 耕平, 阿部 京子, 新規未定教員
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本講義は、内部障害である呼吸器障害、循環器障害、代謝障害に対する理学療法について、講義・演習を行う。特に、運動負荷に伴う呼吸・循環・代謝連関の生理反応、各種徒手的呼吸介助、運動負荷設定などを考慮した理学療法評価、および理学療法プログラムの立案方法について概説し、臨床現場における実践力を養うことが目的である。 また、理学療法士が対象とする中でも代表的な内部障害について、病態の理解および理学療法評価、治療方法について教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士として臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野について講義する。
到達目標	・呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患に関する病態が把握できる。 ・内部障害の病態を理解し、各疾患に対する理学療法評価、理学療法プログラムを選択、プログラム実施におけるリスク管理を説明することができる。 なお、この科目は、専門分野（理学療法治療学）の科目群のひとつである。
計画・内容	【前期】 第1回 内部障害理学療法学総論（内部障害の定義、疫学、扱う範囲）、呼吸器の構造と呼吸調節機能 1 担当：廣瀬・安田（理学療法士） 第2回 呼吸器の構造と呼吸調節機能 2 担当：安田（理学療法士） 第3回 呼吸器機能評価の意義と方法、呼吸機能検査 1 担当：安田（理学療法士） 第4回 慢性閉塞性肺疾患の理学療法、気管支喘息の理学療法 担当：中山（理学療法士） 第5回 肺水腫の理学療法、間質性肺炎の理学療法 担当：中山（理学療法士） 第6回 外科手術後の理学療法・人工呼吸管理と理学療法、在宅、包括的呼吸リハビリテーション・在宅酸素療法 担当：廣瀬（理学療法士） 第7回 理解度確認・まとめ 担当：安田・中山・廣瀬（理学療法士） 第8回 排痰法（実技）/胸郭可動域練習（胸郭モビライゼーション）、徒手的呼吸介助手技（実技） 担当：中山・安田（理学療法士） 第9回 排痰法（実技）/胸郭可動域練習（胸郭モビライゼーション）、徒手的呼吸介助手技（実技） 担当：中山・安田（理学療法士） 第10回 呼吸機能検査 2（実技） 担当：中山・安田（理学療法士） 第11回 ケーススタディー 担当：中山・安田（理学療法士） 第12回 がんのリハビリテーションの基本概念、がんのリハビリテーションの対象と障害の種類 担当：廣瀬（理学療法士） 第13回 がんのリハビリテーションに必要なアセスメント 担当：廣瀬（理学療法士） 第14回 気道内分泌物吸引・BLS 1 担当：安田（理学療法士）・阿部（看護師）・未定 第15回 気道内分泌物吸引・BLS 2 担当：安田（理学療法士）・阿部（看護師）・未定 【後期】 第1回 心臓リハビリテーションの概要、虚血性心疾患の理学療法1 担当：中山・廣瀬（理学療法士） 第2回 虚血性心疾患の理学療法2 担当：廣瀬（理学療法士） 第3回 心不全の理学療法 担当：廣瀬（理学療法士）

計画・内容	第4回 大動脈疾患の理学療法, 閉塞性動脈硬化症の理学療法, 静脈疾患（深部静脈血栓症）の理学療法 担当：廣瀬・中山（理学療法士） 第5回 不整脈と心電図の診かた 1 担当：廣瀬（理学療法士） 第6回 不整脈と心電図の診かた 2 担当：廣瀬（理学療法士） 第7回 運動処方（体力テスト, Borg指数を含む） 担当：廣瀬（理学療法士） 第8回 理解度確認1・まとめ 担当：廣瀬・中山（理学療法士） 第9回 循環器疾患におけるケーススタディ 担当 廣瀬・中山（理学療法士） 第10回 心肺運動負荷試験, 運動処方, フィジカルアセスメント 1 担当：廣瀬・中山・安田（理学療法士） 第11回 心肺運動負荷試験, 運動処方, フィジカルアセスメント 2 担当：廣瀬・中山・安田（理学療法士） 第12回 代謝障害 担当：中山（理学療法士） 第13回 エネルギー消費量, 運動強度と運動プログラム, 糖尿病の治療と運動療法 担当：安田（理学療法士） 第14回 腎疾患と理学療法 担当：安田（理学療法士） 第15回 理解度確認2・まとめ 担当：廣瀬・中山・安田（理学療法士）
授業の進め方	基本的には講義・演習形式で行う。 グループディスカッションを行う回や学生に発表してもらう回もある。 授業習熟度を確認するために、理解度確認も実施する。
能動的な学びの実施	積極的にアクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。
授業時間外の学修	予習（各回 1時間程度） ・指示がある場合はそれに従う。 ・指示のない回は、あらかじめ教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと。 復習（各回 1時間程度） ・配布資料や授業中書き留めたメモをまとめ、ノートを作る。
教科書・参考書	教科書：最新理学療法学講座 内部障害理学療法学、高橋哲也 編、医歯薬出版。 参考書：病気がみえる vol.2 循環器（循環器）、病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌、病気がみえる vol.4 呼吸器、MEDIC MEDIA。
成績評価方法と基準	授業内課題・小テスト・リアクションペーパーなど（20%）、理解度確認（40%）、定期試験（40%）にて評価する。
課題等に対するフィードバック	学生からのリアクションペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	課題の提出が授業の出席に代わる回もあるため、確実に課題を提出すること。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 オンライン授業（Zoom利用）として授業実施する。 各回の授業確認課題を実施する。 ②成績評価方法と基準 オンラインにて、授業内課題・小テスト・リアクションペーパーなど（20%）、理解度確認（40%）、定期試験（40%）にて評価する。

科目名称	小児理学療法学
授業コード	BG330
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	眞保 実
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	・運動発達障害を持つ子どもの理解と対応を学ぶ。 ・理学療法の実践に向けて正常運動発達の理解、反射、反応との関連性を学ぶ。 ・運動発達障害の臨床症状および発達の要素を取り入れた理学療法を療育サービス現場での実務経験を生かして講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・小児分野においてこれらに対する理学療法の臨床経験をもち、必要な評価や治療の経験を講義できる ・運動発達をマイルストーンのとらえ方だけではなく、小児分野で実務経験のある教員が脳の成熟と運動の質を関連付けたとらえ方を講義する。 ・多様な障害像を示す脳性麻痺のとらえ方を、実務経験のある教員が障害の特徴と発達や生活への影響を含めた評価および治療を学ぶ。
到達目標	本学科のディプロマ・ポリシーに掲げる医学的知識及び理学療法を十分に理解し、理学療法士としての基本的な臨床技能が実践できることを目標とする。具体的には以下の項目の習得を目指す。 ・運動発達障害を持つ子どもへの理学療法に関する基本的知識、評価、治療法の考え方を身につける。 ・運動発達障害の理学療法に関する基礎レベルの問題であれば、自力で判断して解決できるようになる。 ・発達障害における様々な障害像の理解を通して医療人として幅広く豊かな人間観を獲得する。
計画・内容	小児分野において実務経験を持つ理学療法士が担当する。 第1回：オリエンテーション、子どもの理学療法概要 第2回：胎生期および新生児期について 第3回：脳の発達、姿勢反射および姿勢反応概要 第4回：原始反射・姿勢反射 第5回：姿勢反応 第6回：正常運動発達（背臥位・腹臥位） 第7回：正常運動発達（座位、立位） 第8回：正常運動発達（上肢、口腔機能） 第9回：発達評価（理学療法としての評価、評価バッテリー） 第10回：脳性麻痺総論（疾患特性） 第11回：脳性麻痺（痙直型四肢麻痺麻痺、痙直型両麻痺） 第12回：脳性麻痺（痙直型片麻痺。アトローゼ型） 第13回：脳性麻痺の理学療法 第14回：整形外科疾患 第15回：整形外科疾患、まとめ
授業の進め方	・パワーポイントを使用した講義形式で行う。
能動的な学びの実施	該当しない
授業時間外の学修	・授業前にはタイトルまたはキーワードに関連した情報収集を行うこと。（各回30分） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（各回60分）

教科書・参考書	・教科書：細田多穂監修、小児理学療法学テキスト改訂第4版、南江堂 ・必要に応じてプリントを配布する
成績評価方法と基準	・定期試験（100%）
課題等に対するフィードバック	・毎回、質問に応じる
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・パワーポイントを使用したオンラインによる講義形式で行う。 ②成績評価方法と基準 ・定期試験（100%）

科目名称	プロフェッショナルスキルⅠ
授業コード	BG331
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	眞保 実, 嶋田 裕司, 金子 千香
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	2年次までに習得した専門基礎科目（解剖学、生理学、運動学など）、専門科目（理学療法評価学など）は今後の臨床実習や卒業後の理学療法の実践において重要な基盤となる。本授業ではこの基盤となる専門基礎科目ならびに専門科目に関する知識の整理と確認を行い、グループ学習等を通して基礎固めの演習を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士としての臨床経験のある教員が、知識の基盤づくり等の演習を行う。
到達目標	本学のディプロマ・ポリシーに掲げる医学的知識及び理学療法を十分に理解し、理学療法士としての基本的な臨床技能が実践できることを目標とする。具体的には以下の項目の習得を目指す。 ・解剖学、生理学、運動学などの基盤となる基礎医学の知識 ・理学療法評価などの専門技術の知識 ・基礎レベルの問題であれば自力で解決する力
計画・内容	第1回 オリエンテーション 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第2回 解剖学・運動学（上肢・頸部・顔面の筋） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第3回 解剖学・運動学（下肢・体幹の筋） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第4回 解剖学・運動学（上肢・頸部・顔面の筋） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第5回 解剖学・運動学（下肢・体幹の筋・姿勢・歩行） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第6回 解剖学（脳） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第7回 解剖学（脊髄・末梢神経） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第8回 解剖学・生理学（呼吸器・消化器） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第9回 解剖学・生理学（循環器・排泄） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第10回 グループ学習ガイダンス 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第11回 グループ学習A-1（理学療法評価） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第12回 グループ学習A-2（理学療法評価） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第13回 グループ学習B-1（理学療法評価） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第14回 グループ学習B-2（理学療法評価） 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士） 第15回 まとめ、理解度確認 担当：眞保/金子/新規教員（すべて理学療法士）
授業の進め方	・授業内で演習問題を解き、問題を振り返るように個人学習ならびにグループ学習を織り交ぜながら演習形式で行う。
能動的な学びの実施	・演習問題を通して、グループ学習の中で問題解決を進めていく。
授業時間外の学修	・授業前にはタイトルまたはキーワードに関連した情報収集を行うこと。（各回30分） ・授業内で行った内容を教科書やプリントと関連付けて自分で整理すること。（各回60分）
教科書・参考書	・各授業のタイトルに相応して使用していた教科書や参考書を持参する。

成績評価方法と基準	・授業内で実施した小テスト（20%）+定期試験（80%）
課題等に対するフィードバック	・演習問題等の内容を授業内で解説する。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・zoomによるオンラインで演習授業を行う。 ・GoogleフォームやCampusSquareを用いた小テストを行う。 ②成績評価方法と基準 ・授業内のオンラインによる小テスト（20%）+定期試験（80%）

科目名称	プロフェッショナルスキルII
授業コード	BG378
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	奥田 裕, 中山 彰博, 豊田 輝
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	本講義ではProblem - Based - Learning (問題基盤型学習 以下、PBL) を用いて、理学療法の現場における事例・シナリオを体験することで、臨床能力として必要な思考過程が高められるように取り組む。特に、少人数でのグループ学習を行い、臨床で活用できる知識の習得、問題解決能力の向上、自己主導型学習態度の習得などのスキルの向上を目的としている。なお、臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた経験を活かして、理学療法士が対象とする中でも代表的疾患（骨関節疾患、中枢神経疾患）について、病態の理解および理学療法評価、治療方法について教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、各疾患の特徴や治療、および理学療法の組み立て方について理解を深めるよう講義する。
到達目標	代表的疾患（骨関節疾患、中枢神経疾患）に対する理学療法を進める上で、下記項目を習得する。 ・ 症例提示から大まかな病態を理解できる。 ・ 基本情報や基本動作などから、関連する理学療法評価が挙げることができる。 ・ 症例基本情報から考えられる、実施されるべき評価項目の目的と意義を挙げることができる。 ・ 提示された検査結果から各検査結果の解釈ができる。 ・ 提示された症例の統合と解釈（ICF表の作成、目標設定とプログラム立案）。 これを実現するため、カリキュラムポリシーにあるグループワークを中心としたアクティブ・ラーニングを展開する。また、これによって、ディプロマポリシーにある理学療法評価法・治療法の獲得、及び問題解決能力を達成することができる。
計画・内容	第1回 オリエンテーション 担当：奥田,中山,豊田(全教員理学療法士) 第2回 症例1：情報収集,疾患調べ 担当：豊田,奥田,中山 第3回 症例1：疾患説明～動画視聴,動作観察 担当：豊田,奥田,中山 第4回 症例1：疾患説明～動画視聴,動作観察 担当：豊田,奥田,中山 第5回 症例1：樹形図作成～ICF作成 担当：豊田,奥田,中山 第6回 症例1：樹形図作成～ICF作成 担当：豊田,奥田,中山 第7回 症例1：ポートフォリオ作成(問題点,目標設定) 担当：豊田,奥田,中山 第8回 症例1：ポートフォリオ作成(問題点,目標設定) 担当：豊田,奥田,中山 第9回 症例2：疾患説明～動画視聴,動作観察 担当：奥田,豊田,中山 第10回 症例2：疾患説明～動画視聴,動作観察 担当：奥田,豊田,中山 第11回 症例2：樹形図作成～ICF作成 担当：奥田,豊田,中山 第12回 症例2：樹形図作成～ICF作成 担当：奥田,豊田,中山 第13回 症例2：ポートフォリオ作成(問題点,目標設定) 担当：奥田,豊田,中山 第14回 症例2：ポートフォリオ作成(問題点,目標設定) 担当：奥田,豊田,中山 第15回 グループワーク：ポートフォリオ作成(プログラム立案,症例1) 担当：豊田,奥田,中山 第16回 グループワーク：ポートフォリオ作成(プログラム立案,症例2) 担当：奥田,豊田,中山 第17回 グループワーク：具体的な理学療法プログラム作成 担当：豊田,奥田,中山 第18回 グループワーク：具体的な理学療法プログラム作成 担当：奥田,豊田,中山 第19回 グループワーク（最終発表準備） 担当：豊田,奥田,中山

計画・内容	第20回 グループワーク（最終発表準備） 担当：奥田,中山,豊田 第21回 最終発表①（症例1 or 2の理学療法プログラムの実技プレゼンテーション） 担当：奥田,中山,豊田 第22回 最終発表②（症例1 or 2の理学療法プログラムの実技プレゼンテーション） 担当：奥田,中山,豊田 第23回 最終発表③（症例1 or 2の理学療法プログラムの実技プレゼンテーション） 担当：奥田,中山,豊田 第24回 最終発表④（症例1 or 2の理学療法プログラムの実技プレゼンテーション） 担当：奥田,中山,豊田
授業の進め方	・授業の進め方 症例提示後、グループワーク（学生間ディスカッション）を中心に行う。 ディスカッションの途中で公開型の質問を受け、教員から回答を与える。
能動的な学びの実施	・毎回、学習のポイントの確認とその解説を行い、理解度の振り返りを行う。 ・学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・授業時間外学習(合計60時間程度) 予習：指示がある場合はそれに従う。 指示のない回は、タイトルまたはキーワードに関して基本的な理解を得ておくこと 復習：グループディスカッション内などで書き留めたメモをまとめ、ノートを作る。
教科書・参考書	教科書：豊田輝(編)「症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト」羊土社 参考書：特になし
成績評価方法と基準	・成績評価方法と基準 課題・授業内テスト,課題（60%）発表（40%）, 出欠席状況、授業態度等も評価に加味する。
課題等に対するフィードバック	・毎回、課題提出があり、学生の共通する疑問点等について次回の講義でフィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	グループディスカッションのため、欠席をしないように留意する。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 ②成績評価方法 ・提示された症例に関するグループ発表（40%）, 課題・小テスト（60%）

科目名称	プロフェッショナルスキルIII
授業コード	BG379
英語名称	
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	塚田 絵里子, 中山 彰博, 奥田 裕, 安田 耕平, 小山 優美子, 嶋田 裕司, 廣瀬 昇, 松葉 潤治, 眞保 実, 芹田 透, 藤田 博暁, 豊田 輝, 金子 千香, 関根 千恵
※記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目は、臨床実習に必要な技能について、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。授業内ではグループ毎にOSCEに備えた準備学習を行う。なお、臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた経験を活かして、理学療法士が対象とする中でも代表的疾患（中枢神経疾患および骨関節疾患など）について、病態の理解および理学療法評価、治療方法について教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士としての臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野について演習・実習を実施する。
到達目標	学科のディプロマ・ポリシーに掲げる理学療法を進める上で、代表的疾患（中枢神経疾患および骨関節疾患など）に対する必要となる臨床技能（医療面接、評価、介入等）について習得する。なお、この科目は、専門分野（理学療法治療学）の科目群のひとつである。
計画・内容	※科目担当者はすべて理学療法士 第1・2回 OSCE概要説明、課題提示①②、グループワーク①②（全担当教員） 第3・4回 OSCE①（全担当教員） 第5・6回 OSCE②（全担当教員） 第7・8回 課題提示③、グループワーク（全担当教員） 第9・10回 OSCE③（全担当教員） 第11・12回 課題提示④、グループワーク（全担当教員） 第13・14回 OSCE実施④（全担当教員） 第15・16回 課題提示⑤、グループワーク（全担当教員） 第17・18回 OSCE⑤（全担当教員） 第19・20回 課題提示⑥、グループワーク（全担当教員） 第21・22回 グループワーク（全担当教員） 第23・24回 OSCE⑥（全担当教員）
授業の進め方	計5課題についてOSCEを実施する。5課題について提示後、OSCEに備えてグループワーク（学生間による練習）を行う。途中で公開型の質問を受け、教員から回答を与える。
能動的な学びの実施	学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	【事前学習】各課題を遂行する上で必要となる基本的知識について確認すること。 【事後学習】課題が達成できなかった項目や理解が不十分だった項目については十分復習しておくこと。学習時間計1.5～2時間とする。
教科書・参考書	教科書：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版、才藤 栄一 監修、金原出版。

教科書・参考書	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版、才藤栄一 監修、金原出版。 参考書：講義内で適宜紹介する。
成績評価方法と基準	計5回のOSCEの結果を総合判定する（100%）
課題等に対するフィードバック	OSCE課題について、実施終了時に全員に（口頭による）簡単なフィードバックを与える。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	本科目は、診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる臨床技能を客観的臨床能力試験で評価する重要な科目である。そのため、授業に対する十分な準備と自主的な取り組みが求められる。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①授業の進め方 オンライン授業（Zoom利用）を実施する。 各回の授業確認課題を実施する。 ②成績評価方法と基準 計5回のOSCEの結果を総合判定する（100%）

科目名称	地域理学療法学
授業コード	BG333
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	奥田 裕, 荒尾 雅文, 青木 由加, 戸笈 みどり
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	地域や在宅での理学療法の基本的概念やシステム、理学療法の展開などについて講義する。また、地域および在宅での理学療法の評価方法、指導方法についての講義を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、地域や在宅での理学療法についての講義を行う。
到達目標	本学が掲げるディプロマ・ポリシーの理学療法学に関する知識の習得を目指す。 ・地域理学療法に関する理学療法士国家試験に準拠した専門的知識を習得できる。 ・理学療法士に必要な地域・在宅の概念およびそれを支えるシステム、その地域在宅における展開について理解し、説明ができる。 ・地域における理学療法の実践について理解することができる。
計画・内容	第1回 地域リハビリテーションの概念 担当：奥田(理学療法士) 第2回 制度と関連法規 担当：奥田 第3回 地域における社会資源 担当：奥田 第4回 地域における社会資源 担当：奥田 第5回 地域包括ケアシステム 担当：奥田 第6回 他職種との協働 担当：奥田 第7回 他職種との協働 担当：奥田 第8回 介護保険における理学療法 担当：奥田 第9回 在宅医療に関わる知識 担当：奥田 第10回 生活支援と介護予防 担当：奥田 第11回 生活支援と介護予防 担当：奥田 第12回 地域理学療法の実践例 担当：荒尾(理学療法士) 第13回 地域理学療法の実践例 担当：荒尾(理学療法士) 第14回 地域包括支援センターの役割 担当：青木(社会福祉士,介護支援専門員) 第15回 地域での介護予防の実践例 担当：戸笈(社会福祉士,主任介護支援専門員)
授業の進め方	スライドや配布資料を使用し、教科書に沿って講義する。 個人課題、課題に対するグループ学修も実施。
能動的な学びの実施	講義だけではなく、グループ学修や演習も取り入れることで、積極的な参加が期待される。
授業時間外の学修	予習：授業前に教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1～2時間程度） 復習：教科書・資料を見直し、講義ノートを整理すること（各回1～2時間程度）

教科書・参考書	【教科書】浅川育代 編集 「ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 第2版」医歯薬出版 【参考書】重森健太,他編集「PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版」羊土社 牧田光代,他編集「地域理学療法学 第4版 (標準理学療法学 専門分野)」,医学書院
成績評価方法と基準	定期試験(40%)と提出課題(60%)により評価する。 地域包括支援センターが関与している高齢者の自主サークル等にボランティアとして参加することで、1回につき5点加点する（最大10点）。
課題等に対するフィードバック	課題に関しては授業内でフィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus squareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①オンライン上で双方向性の講義を行う。 ②講義期間中の課題(60%)、定期試験の代替としての課題(40%)により評価する。

科目名称	生活環境学
授業コード	BG362
英語名称	Theories on Living Environment
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	金子 千香
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	障害のある人の自立支援および社会参加を介入支援するためには、障害のある人の個人の要因として捉えるとともに、その人を取り巻く生活環境からも捉える必要もある。 本講義では、生活環境を障害のある人の住居や公共交通機関および公共建築物などの物理的環境のみならず、福祉制度や施策等の制度的環境、更には障害のある人やその家族および介護者、専門家等の人的環境からも捉え、障害のある人が自立した生活とともに社会参加が保証されるための生活環境整備・改善の介入支援の在り方について学修する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、障害のある人の取り巻く生活環境についての講義を行う。
到達目標	本学が掲げるディプロマ・ポリシーの理学療法学に関する知識の習得を目指す。 ・生活環境学の基礎概念を理解し、障害のある人の生活活動機能障害と取り巻く生活環境との関係について、自立した生活とともに社会参加の観点から理解する。
計画・内容	第1回 生活環境の考え方,日本における生活環境の特徴と課題 担当：金子 第2回 生活環境整備に関する基本法 担当：金子 第3回 生活環境整備の基本（評価と改善計画） 担当：金子 第4回 住宅改修（基礎） 担当：金子 第5回 住宅改修（応用） 担当：金子 第6回 疾患別環境整備 担当：金子 第7回 まちづくり・社会保障制度 担当：金子 第8回 まとめ 担当：金子 ＊担当講師は理学療法士として15年以上の実務経験を有する。
授業の進め方	スライドや配布資料を使用し、教科書に沿って講義する。 必要に応じて個人課題やグループワークを行う。
能動的な学びの実施	課題、ワークへの取り組みにおいて能動的な学びを実施する。
授業時間外の学修	予習：授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間） 復習：教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること（各回1時間～2時間）

教科書・参考書	教科書：鶴見隆正,他(編集), 標準理学療法学「日常生活活動学・生活環境学 第6版」医学書院. 参考書：徳田良英 監修「生活環境論入門 第3版」DTP出版
成績評価方法と基準	提出課題と試験(100%)により評価する。
課題等に対するフィードバック	課題については、適宜フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照 メールにて随時受付
留意事項	
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	①オンライン上で双方向性の講義を行う。 ②提出課題と試験(100%)により評価する。